

2010 年度 小委員会活動成果報告

(2011 年 2 月 9 日作成)

小委員会名	都市と気候適応小委員会		主 査 名：成田健一 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	地球環境委員会		委員長名：稲田 達夫 主 査 名：
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2011 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>ヒートアイランドは多様な要因が複雑に絡む現象であり、対策を推進するに当たっては気候変動への適応策を含め発生メカニズムの解明と対策技術の立案を行う必要がある。本小委員会では多様な要因、スケールで生じるヒートアイランド現象のメカニズムの検討を行うと共に、適応策の視点を含めて行政・自治体等の社会事業に役立つ効果的な方策を提案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2009 年度：ニュースレターの発行、シンポジウムの開催 ・2010 年度：ニュースレターの発行、シンポジウムの開催 		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：有</p> <p>成田健一 (日本工大), 一ノ瀬俊明 (国立環境研究所), 渡邊浩文 (東北工大), 足永靖信 (建築研究所), 大岡龍三 (東大生研), 大谷正太 (公募・日本技術開発), 鍵屋浩司 (国総研), 玄地 裕 (産総研), 近藤靖史 (東京都市大), 谷本 潤 (九大), 鳴海大典 (阪大), 橋本 剛 (筑波大), 持田 灯 (東北大)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)	<p>都市気候モデリング WG</p> <p>ヒートアイランドをはじめとした都市気候の形成要因や発生メカニズムを明らかにするとともに、それが人間活動に与える影響、資源エネルギー環境、地球環境等に及ぼす影響のトータルな予測・評価を含めたモデリングを行うことを目的とする。</p>		
2010 年度予算	85,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	1 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. 公開勉強会 11 月 6 日開催 参加者数 25 名 「ヒートアイランド対策は地球温暖化対策として寄与するか？」
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. 公開勉強会を開催し、地球温暖化対策と従来のヒートアイランド対策は両立するのか？について、有意義な議論と意見交換ができた。参加者からも、大変充実した内容であったとのコメントを多数頂いた。パネリストの皆さんのご好意で当日のプレゼン資料は終了後参加者に配布された。</p> <p>2. 都市気候モデリング WG は「モデリングツールのベンチマークテスト」を中心に活動を行った。本WGは、若手研究者の勉強と情報交換の場という位置づけもあり、その意味でも十分な役割は果たせた。</p>

<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<p>1. 現在、2004年に策定されたヒートアイランド対策大綱の改定作業が進められている。現在の大綱は、対策メニューの羅列に終わっているとの反省から、具体的な対策効果の盛り込みが議論されている。本小委員会の活動は、このような動きにもコミットするもので、社会的要請は高いと思われる。</p> <p>2. ヒートアイランドの議論は、地球温暖化の議論に吸収されつつあると思われるが、そのことが、逆に議論を複雑にしており、ちゃんとした議論を社会に発信すべき必要性はむしろ増している。</p> <p>3. 都市気候モデリングWGに関しては、建築分野の都市気候モデルを研究する若手が、気象学など関連する周辺領域の情報を取り入れるための機会として大きな役割を長年果たしてきたが、領域間の交流が多方面で活発化し、建築分野で用いられるモデルが取り入れるべき内容はすでに少なくなってきたという状況もあり、今年度をもって、一応、活動を終了することとなった。</p>
--------------------------	--

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。